

〔巻頭言〕

雪国での養豚

(株)サンエスプリーディング 名 越 仁 宣

このAAS46号が発刊されているのは2月。訳あって、おそらく今は新潟県五泉市にある小規模の養豚場にいるはずだ。

昨年2月時も、この五泉市にある養豚場だった。関東地方でも数十年ぶりの大雪になり、あちこちで交通が遮断されたいへんな思いをされた人が多かった。

私は、昨年2月15日の大雪の日にも五泉市にいて窓からひたすら降りしきる雪を見ていた。

その日は栃木県の自宅に帰る日だったが、帰れなくなるんじゃないかという不安感に襲われ、急いで一般管理を終わらせて車に乗り込んだ。

しかし、最寄りの安田インターに着いてみたら磐越道の会津地方は通行不能との案内表示、北陸道を通って関越道へと回った。しかし、関越道に乗ったところで今度は湯沢インターから通行止めの表示が出た。戻ることも先に行くことも出来ず湯沢インターで降りて一般道を走ったら、今度は雪崩のため群馬県へ抜ける一般道も閉鎖されていた。あてもなく湯沢市内を走っていたら、温泉ランドの看板が目にとまり急いでそこへ向かった。

その温泉ランドは私のような者であふれかえっておりフロントまで人がぎっしりというほど混雑して寝具も足りない状況だった。しかし、車中で過ごすことも覚悟していたので、ありがたく泊まることにした。結局、2泊3日その温泉ランドで過ごすことになった。ぐっすりと眠ることは出来なかったが、温泉と缶ビールとおにぎりには事欠

かなかった。テレビで多くの人が車中泊しているニュースを見ては、自分はまだ幸せなんだと実感していた。そのことがあってから、冬場に車で移動する際は必ず交通規制情報をチェックしてから動くようになった。また、大雪の日には下手に動かないのが1番ということが、よく分かった。

五泉市の養豚場では雪が積もった日の朝はまず除雪から始まる。早朝に除雪車が通るので道路上の積雪は少ないのだが、道路脇が雪の壁になるので車を駐車するにも入場するのにも、まず雪を除かさなければならぬ。プラスチック製の除雪具は軽くて良いのだが、重い雪質だと簡単に壊れてしまう。鉄製の重い角スコジャないと話にならない。餌の配達がある日はバルグ車が通るところも除雪しなければならない。タイヤローダーは運転したことがなかったが教えてもらうことにした。場内道路も少なくとも歩ける程度には雪を除かず。出荷する日には豚が歩けるように出荷台まで雪を除かさなければならぬ。

屋根に積もった雪も時々落とさないと心配だ。そういう仕事に慣れていない私では、これだけでもう腰が痛くなる。

これまでも東北の生産者から冬場の辛さを聞いてはいたが『それは、たいへんですね』と同調はするのだが何の実感もなかった。ただ話を合わせていただけだった。

しかし、今は違う。本心から実感できる。心から、春が来る日が待ち遠しい。